



CloudSystemテンプレート1st-Model オートスケーリングWebシステム 導入手順書

※本書では「Exastro IT Automation」を「ITA」、「CloudSystemテンプレート1st-Model オートスケーリングWebシステム」を「CSテンプレート」として記載します。

第1.0版 (ITAバージョン1.5.0版)

Exastro developer

目次

1. はじめに

1. 本資料について／導入手順フロー
2. CSテンプレート導入イメージ
3. ITAユーザー／IAMユーザーの役割と運用方法

2. 導入準備

1. 導入準備

3. 導入手順

1. CSテンプレート導入ファイルダウンロード
2. CSテンプレート導入ファイルインポート
3. 機器一覧_登録ホストのログイン情報変更
4. プロキシ情報の登録
5. ITAユーザーのパスワード変更
6. システム管理者のAWSアカウント情報登録
7. AWS管理者のIAMユーザー作成実行と登録
8. インフラ管理者&インフラユーザーのIAMユーザー作成実行と登録
9. オートスケール用パラメータの登録

4. 補足

1. システム管理者&AWS管理者のパラメータ廃止と復活
2. Teams連携通知の登録
3. メニューグループ／メニュー概要
4. Conductorの参照パラメータ

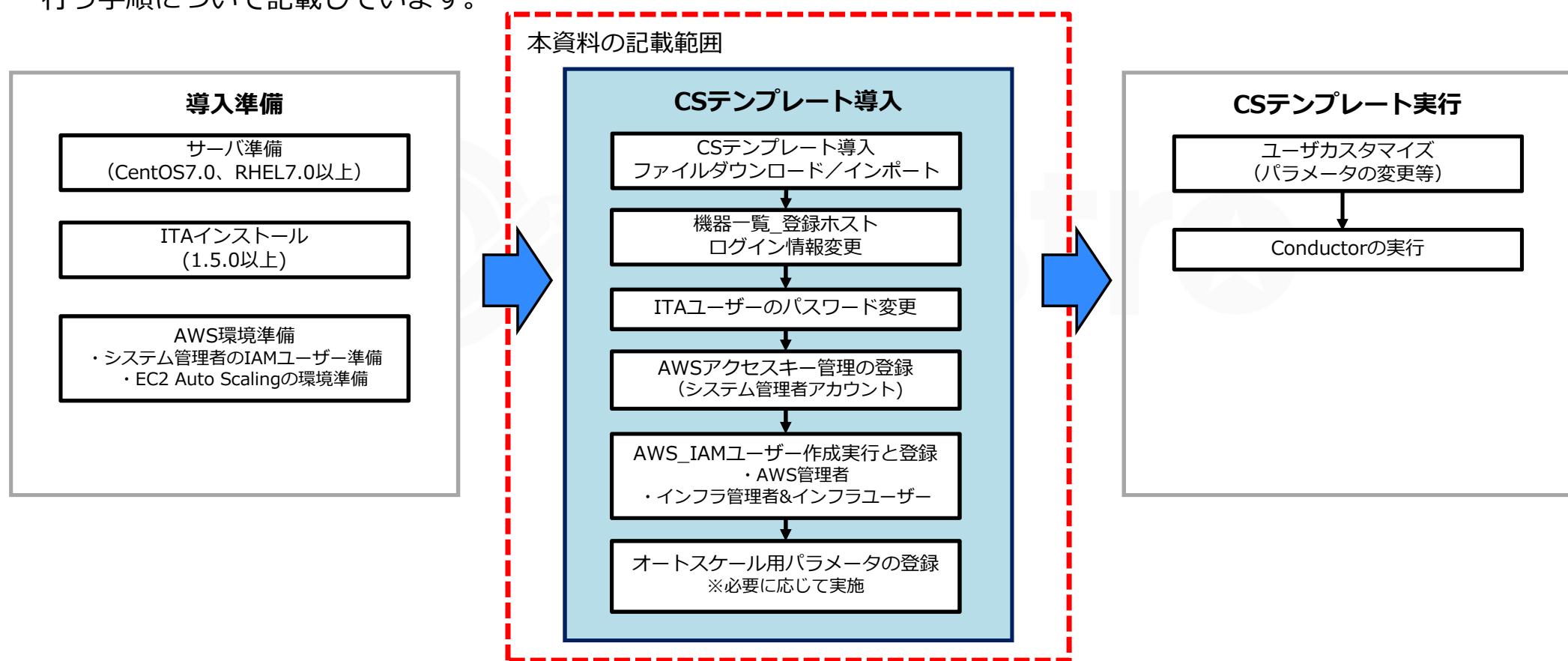
1. はじめに



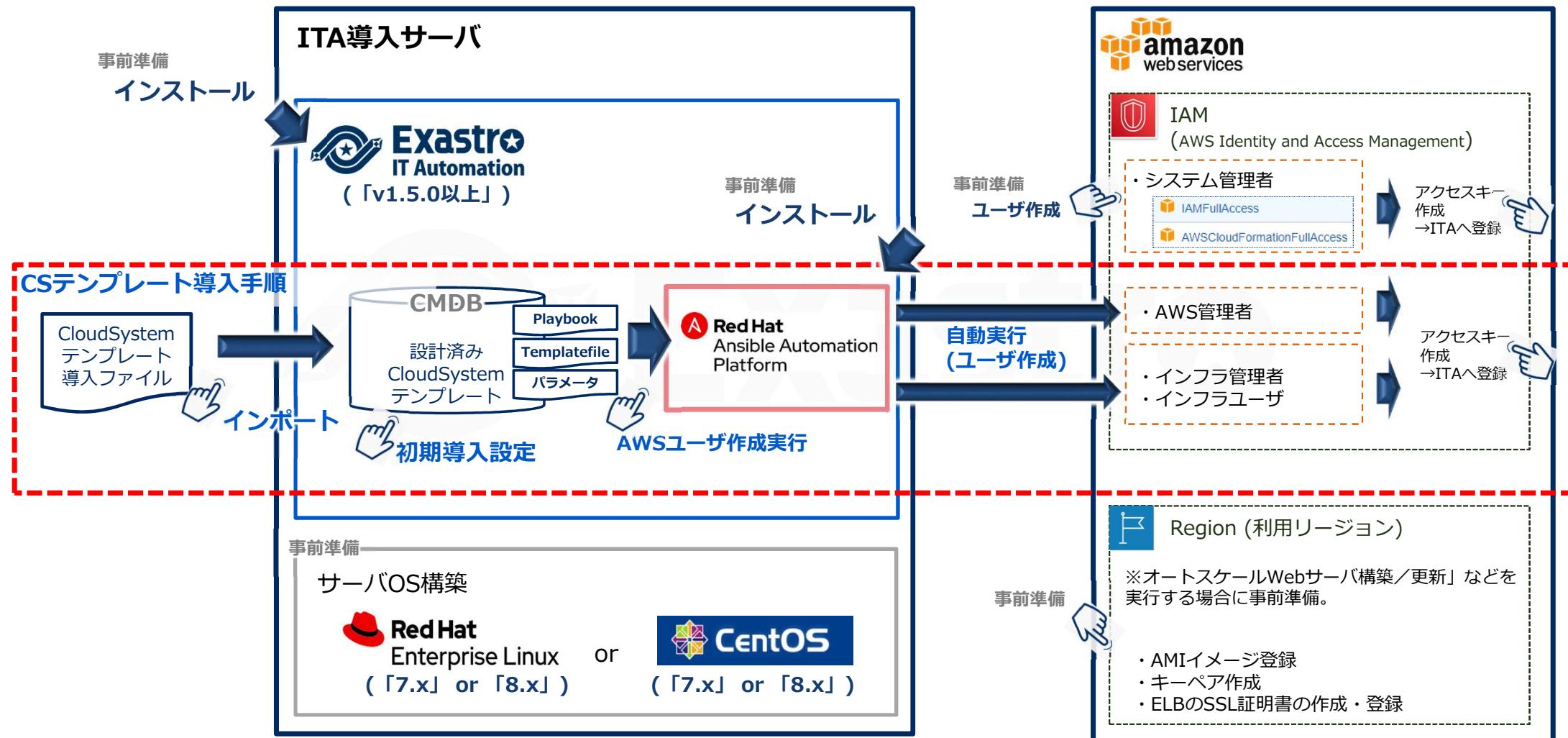
1.1 本資料について／導入手順フロー

■ 本資料について

- 本資料は、ITAサーバにCSテンプレート導入ファイル(パッケージファイル)のインポート、及び、初期設定を行う手順について記載しています。



1.2 CSテンプレート導入イメージ



1.3 ITAユーザー／IAMユーザーの役割と運用方法

ITAユーザー／IAMユーザーの役割

CSテンプレートでは、運用業務によりアクセス権限や操作権限※2を、ロールごとに制限する運用をポリシーとしており、そのポリシーに従いIAMユーザを作成しての運用を推奨しています。

※1 システム管理者のみで運用することも可能です。

※2 下位権限のユーザのConductorの実行を制限する場合は、[補足4.1](#)を参照ください。

ITA		AWS	権限概要	想定業務
ユーザー名(初期値)	ログインID(初期値)	IAMユーザー名(初期値)		
システム管理者	administrator	(事前準備)	・ITAの操作全般	・kymファイルをインポート/エクスポート ・ITA初回セットアップ ・AWS管理者を作成する ・ITA全般に関する設定を変更
AWS管理者	aws-admin	cloud-system-aws-admin パラメータにより変更可能	・IAMユーザーの構築/更新/削除 ・IAMユーザーに関するメニューの操作権限	・インフラ管理者・インフラユーザーを作成する ・必要に応じてIAMユーザーのパラメータを変更 ・不要なIAMユーザーを削除
インフラ管理者	infra-admin	cloud-system-infra-admin パラメータにより変更可能	・対象システムの構築/更新/削除 ・対象システムに関するメニューの操作権限	・対象システムのパラメータを管理する ・対象システムの構築/削除を実行する ・必要に応じて対象システムを更新する ・ITA登録ファイル(プレイバック、テンプレートファイル等)を追加/変更する ・テンプレートファイルを新規追加した際にパラメタメニューを作成する
インフラユーザー	infra-user	cloud-system-infra-user パラメータにより変更可能	・対象システムのコンテンツを更新 ・必要なメニューの操作権限	・AWSマネジメントコンソールでシステムをモニタリングする ・コンテンツ更新に関するパラメータを管理する ・コンテンツ更新を実行する ・オペレーションの追加はしない
CloudSystem テンプレートAPI	cloud-system-template-api	無し	・一部のメニュー操作権限	・Movement「機器一覧同期」「機器一覧初期化」を実行する

2. 導入準備



2.1 導入準備 (1/3)

● サーバ準備

ITAをインストールするサーバを用意します、サーバ動作要件は以下のドキュメントの [4頁 システム要件] を参照ください。
また本サーバはAWSと接続できる環境を用意してください。 (http／https／ssh通信)
[ITA システム構成／環境構築ガイド 基本編](#)

● ITAインストール

- ・ ITAバージョンは1.5.0以上のものをインストールしてください。
- ・ インストール時のアンサーファイル (ita_answers.txt) では、以下の機能のインストール指定をしてください。
(※インストーラーのデフォルト指定)

```
ita_base:yes  
material:no  
createparam:yes  
hostgroup:yes  
ansible_driver:yes  
cobbler_driver:no  
openstack_driver:no  
terraform_driver:no
```

- ・ インストール手順は以下ドキュメントを参照ください。

[ITAオンラインインストール手順](#)

2.1 導入準備 (2/3)

● AWS環境準備

①システム管理者のIAMユーザー準備

以下のIAMポリシーをアタッチしたIAMユーザーの「アカウントID」「アクセスキー」「シークレットキー」を用意してください。

- IAMFullAccess
- AWSCloudFormationFullAccess

※システム管理者のみで運用する場合は、上記に加え以下のポリシーも必要です。

- ec2:DescribeInstances
- elasticloadbalancing:Describe*
- s3:*

【参考】 IAMユーザー/アクセスキー/シークレットキーの作成手順概要 (AWSマネジメントコンソールにて実施)

- 1.IAM > ユーザー > 「IAMユーザー準備」で用意したユーザー名を押下
- 2.認証情報 > アクセスキーを作成を押下
- 3.アクセスキーIDとシークレットアクセスキーが表示されるのでそれを取得する



2.1 導入準備（3/3）

②EC2 Auto Scaling利用の環境準備

CSテンプレートの「オートスケールWebサーバ構築／更新」などを実行する場合、
EC2 Auto Scaling機能にて自動構築するEC2インスタンス向けに利用するリージョン（※1）ごとに、
以下の環境・設定情報を用意してください。

【参考】環境準備／情報取得の手順概要（AWSマネジメントコンソールにて実施）

◆AMI

EC2 > イメージ> AMI に使用するAMIイメージを登録し「AMI ID」を取得。

◆キーペア（※踏み台サーバ用とWebサーバ用に認証鍵を分ける場合は、キーペアを2つ準備します）

EC2 > ネットワーク&セキュリティ > キーペア の「キーペアを作成」から作成し、
「キーペア（pemファイル）」と「キーペア名」を取得。

◆ELB用のSSL証明書

Certificate Manager に証明書を登録し「ARN（リソースネーム）」を取得。

（※1） AWS環境準備時のリージョンと、ITA共通パラメータのAWSリージョン情報は、合わせる必要がありますので、
必要に応じて更新します。また環境ごとにリージョンが異なる場合はオペレーションごとにリージョンを登録します。

現在以下のリージョンで動作確認済で、マスタ管理のAWSリージョンに初期登録されています。

- ap-northeast-1 アジアパシフィック（東京） ※サンプルのオペレーション「環境A」では、本リージョンが初期設定されています。
- ap-southeast-1 アジアパシフィック（シンガポール）
- ap-southeast-2 アジアパシフィック（シドニー）
- us-east-1 米国東部（バージニア北部） ※サンプルのオペレーション「環境B」では、本リージョンが初期設定されています。

3 導入手順



3.1 CSテンプレート導入ファイルダウンロード

■ CSテンプレート導入ファイルダウンロード

- 以下URLからCSテンプレート導入ファイルをダウンロードしてください。

URL : <https://github.com/exastro-suite/Settings-CloudSystemTemplate-1st/releases>
ファイル名 : cloud-system-template-aws-ce-1.0.0-exastro-1.5.0.kym

3.2 CSテンプレート導入ファイルインポート (1/3)

以降のITAの作業は「administrator（システム管理者）」で実施してください

CSテンプレート導入ファイルインポート

- 「エクスポート/インポート」>「メニューインポート」>「ファイルを選択」
3.1でダウンロードしたファイル（cloud-system-template-aws-ce-1.0.0-exastro-1.5.0.kym）を選択して
「アップロード」を押下



3.2 CSテンプレート導入ファイルインポート (2/3)

CSテンプレート導入ファイルインポート

- ファイルのアップロードが完了したらすべてのメニューを選択して、画面最下部の「インポート(廃止を除く)」を押下



3.2 CSテンプレート導入ファイルインポート (3/3)

CSテンプレート導入ファイルインポート

- 「エクスポート/インポート」>「エクスポート/インポート管理」>「フィルタ」を押し下し、インポートが完了しているか確認。

The screenshot shows a table titled '一覧' (List) with the following data:

実行No.	ステータス	処理種別	インポート種別	ファイル名	最終更新日時	最終更新者
4	完了	インポート	通常	4_cloud-system-template-aws-ee-1.0.0-exastro-1.4.1.kym	2020/07/14 14:12:04	データポータビリティプロセッサー

ファイルタスク件数: 1

- インポートが完了している場合、メインメニューは以下のように表示されます。

The screenshot shows the main menu of the Exastro IT Automation interface. The top navigation bar includes 'Menu' and 'ログイン情報'. The main menu area is titled 'メインメニュー' (Main Menu) and contains several categories and sub-options:

- メニュー: エクスポート/インポート
- メニュー: メニューエクスポート
- メニュー: メニューアイポート
- エクスポート/インポート管理
- メニュー: パラメータ管理
- メニュー: 構成/更新シナリオ...
- メニュー: 削除シナリオ...
- ドキュメント管理
- AWSアクセスキー
- Teams認証基準
- 管理コンソール
- 基本コンソール
- エクスポート/...
- Syphony
- Conductor
- メニュー: メニュー一覧
- ホストグループ...
- Anstole特徴

Below this, there are two rows of smaller icons and their corresponding labels:

Icon	Label
Ansible Legacy	Ansible Legacy...
Ansible Pioneer	Ansible Pioneer...
Ansible Legacy...	Ansible Legacy...
マスク管理	マスク管理
【ホスト用】構...	【ホスト用】構...
代入者管理	代入者管理
【ホスト用】代...	【ホスト用】代...

3.3 機器一覧_登録ホストのログイン情報変更

■ 機器一覧_登録ホストのパスワード変更

- 「基本コンソール」>「機器一覧」>「フィルタ」>「更新」

必要なログイン情報を入力して「更新」を押下

※ログイン情報につきましてはSSH接続可能かつ、Ansible playbookの動作可能なサーバ／ユーザIDを指定します。
ご利用環境に適した設定をご入力下さい



POINT

パスワード認証の場合

ログインユーザID : SSH接続かつAnsible playbookを実行可能なユーザID
ログインパスワード : 上記で入力したユーザIDのパスワードを入力

SSH鍵認証をご利用の場合、[利用手順マニュアル 基本コンソール](#)の
P10 機器一覧の項目をご参照ください。

3.4 プロキシ情報の登録

ITA導入サーバーがAWSとの接続にプロキシサーバーを使用する環境である場合、本手順を実行してください。

■ プロキシ情報の登録

- 「Ansible共通」>「グローバル変数管理」>「フィルタ」>「更新」
「具体値」にプロキシサーバーの情報を入力して「更新」を押下

一覧/更新

項目	グローバル変数名*	具体値*	変数名説明	備考	登録日時	最終更新者
1	GBL_PROXY	http://xxxxxx.co.jp	プロキシ用変数	外部アクセスで使用するプロキシを入力してください。 〔入力書式〕 [ホスト]:[ポート番号] (例)http://xxxxxx.co.jp:8080	自動入力	自動入力

※*は必須項目です。

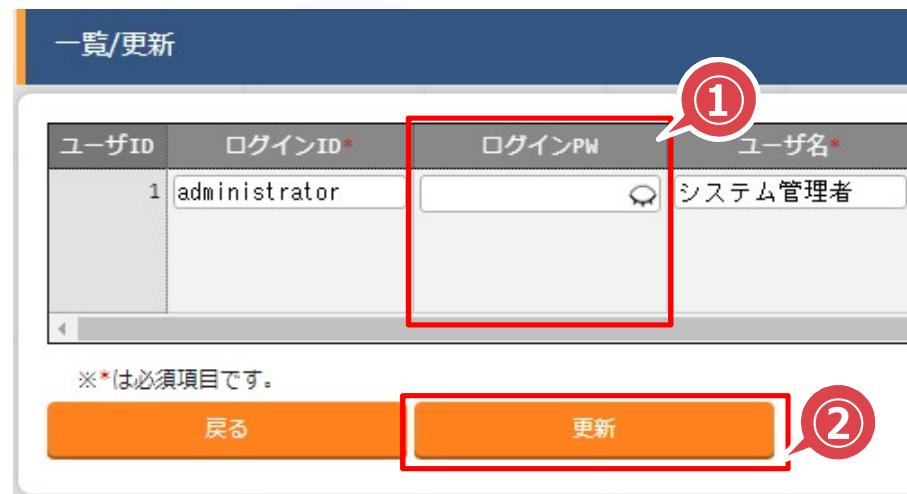
戻る 更新 ②

1: 具体値欄
2: 「更新」ボタン

3.5 ITAユーザーのパスワード変更 (1/4)

ITA管理者ユーザのパスワード変更

- 「管理コンソール」>「ユーザ管理」>ログインID「administrator」の「更新」を押下
「ログインPW」に任意のパスワードを入力して「更新」を押下
同様の手順で「aws-admin」「infra-admin」「infra-user」のパスワードも変更してください。
※デフォルトパスワードは全て「password」となっています。



3.5 ITAユーザーのパスワード変更 (2/4)

API連携用ユーザのパスワード変更

- 「管理コンソール」>「ユーザ管理」>ログインID「cloud-system-template-api」の「更新」を押下
「ログインPW」に任意のパスワードを入力して「更新」を押下
- ※ 「cloud-ststem-template-api」はAWSに作成されたインスタンスをITA 機器一覧へ登録する際に利用されるユーザです



3.5 ITAユーザーのパスワード変更（3/4）

API連携用ユーザのパスワード変更

- 「Ansible共通」>「ファイル管理」>ファイル埋込変数「CPF_DEVICE_LIST_SYNC」の「ファイル素材」を押下してファイルをダウンロード

一覧/更新							
更新	廃止	素材ID	ファイル埋込変数名	ファイル素材	備考	最終更新日時	最終更新者
更新	廃止	1	CPF_STARTUP	ec2_userdata	WEBサーバの起動時設定	2020/08/17 16:51:17	データポータビリティプロシージャ
更新	廃止	2	CPF_SECRET_KEY_BASTION	dummy_key.pem	踏み台サーバの認証鍵	2020/08/25 11:47:40	データポータビリティプロシージャ
更新	廃止	3	CPF_SECRET_KEY_WEB	dummy_key.pem	WEBサーバの認証鍵	2020/08/25 11:47:53	データポータビリティプロシージャ
更新	廃止	4	CPF_IMAGEFILE	exastro-logo.png	Webサーバ表示画像	2020/08/24 14:21:07	データポータビリティプロシージャ
更新	廃止	5	CPF_AWS_SDK	aws_sdk.zip	AWS SDK for PHP (Version 3)	2020/08/24 14:20:54	データポータビリティプロシージャ
更新	廃止	6	CPF_DEVICE_LIST_SYNC	device_list_sync	機器一覧同期モジュール	2020/08/19 16:04:29	データポータビリティプロシージャ

フィルタ結果件数: 6

Excel出力

3.5 ITAユーザーのパスワード変更 (4/4)

API連携用ユーザのパスワード変更

- ダウンロードしたファイルをテキストで開き、以下の箇所を修正

ファイル埋込変数「CPF_DEVICE_LIST_SYNC」の「更新」>「ファイルを選択」

修正をしたファイルを選択して「事前アップロード」を押下し、アップロードが完了したら「更新」を押下

17行目 : // API実行ユーザーのパスワード
18行目 : const USER_PW = "*****";

ユーザ管理で[cloud-system-template-api]に設定した任意のパスワードに変更



3.6 システム管理者のAWSアカウント情報登録

I AWSアクセスキー管理_システム管理者の登録

- 「AWSアクセスキー管理」>「システム管理者」>「登録」>「登録開始」
「ホスト名」「オペレーション」を選択し、「アカウントID」「アクセスキー」「シークレットキー」を
入力して「登録」を押下

登録

No	ホスト名*	オペレーション*	パラメータ		
			アカウントID*	アクセスキー*	シークレットキー*
自動入力					

※*は必須項目です。

戻る 登録

POINT

- | | |
|----------|---|
| ホスト名 | : 本ITA導入サーバのホスト名を選択
(デフォルトは" exastro-it-automation") |
| オペレーション | : 任意のオペレーションを選択 |
| アカウントID | : AWS環境準備で用意したアカウントIDを入力 |
| アクセスキー | : AWS環境準備で用意したアクセスキーを入力 |
| シークレットキー | : AWS環境準備で用意したシークレットキーを入力 |

3.7 AWS管理者のIAMユーザー作成実行と登録（1/3）

「AWS管理者」の「ユーザー名」「初回パスワード」「グループ名」をCSテンプレートのデフォルト値から変更する場合、本手順を実行してください。

AWS管理者パラメータの登録

- 「パラメータ管理」>「AWS管理者パラメータ」>「フィルタ」>「更新」
「ホスト名」「オペレーション」「ユーザー名」「初回パスワード」「グループ名」を入力して「更新」を押下

No	ホスト名*	オペレーション*	パラメータ		
			ユーザー名*	初回パスワード*	グループ名*
1	exastro-it-automation	2020/05/28 11:00_1:環境A	cloud-system-temp!	CStemplate2020@	cloud-system-temp!

※*は必須項目です。

戻る 更新 ②

POINT

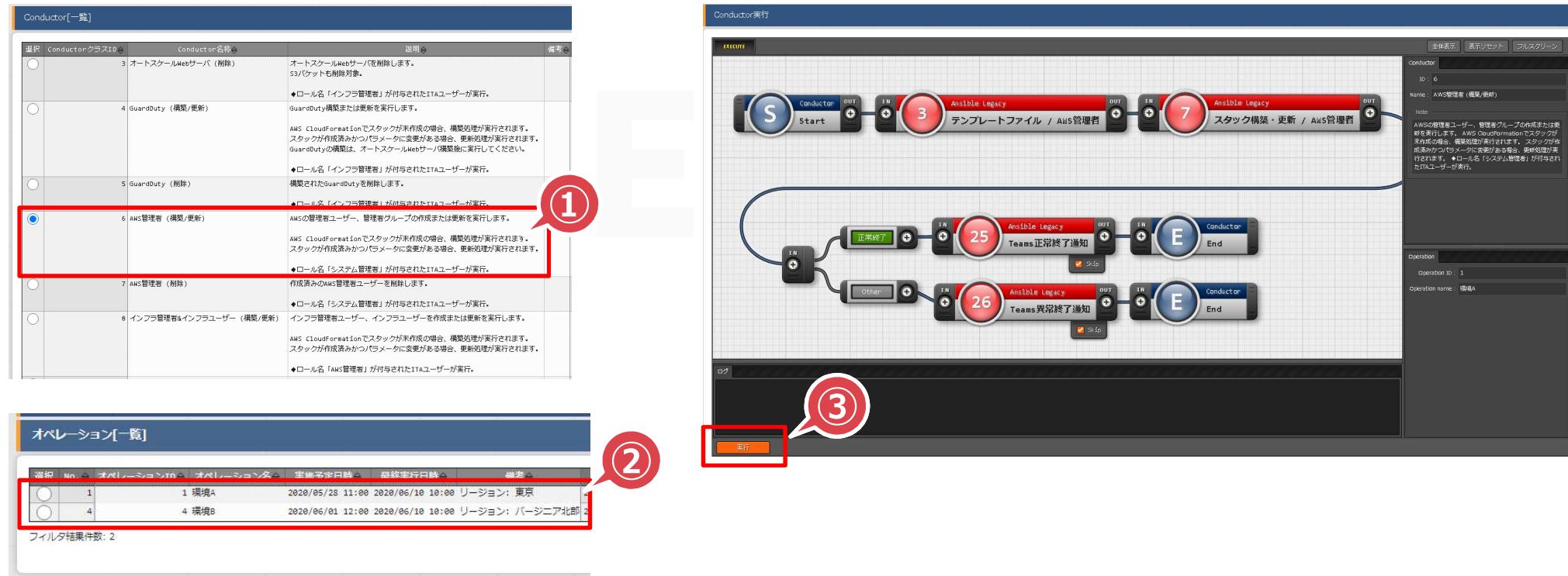
ホスト名	: 本ITA導入サーバのホスト名を選択 (デフォルトは" exastro-it-automation")
オペレーション	: 任意のオペレーションを選択
ユーザー名	: 任意のユーザ名を入力
初回パスワード	: 任意のパスワードを入力
グループ名	: 任意のグループ名を入力

3.7 AWS管理者のIAMユーザー作成実行と登録 (2/3)

AWS管理者作成の実行

- 「Conductor」>「Conductor作業実行」

「Conductor[一覧]」の「AWS管理者（構築／更新）」を選択し、「オペレーション[一覧]」から「AWS管理者パラメータ」へ登録したオペレーションを選択して画面最下部の「実行」を押下



3.7 AWS管理者のIAMユーザー作成実行と登録 (3/3)

AWSアクセスキー管理_AWS管理者の登録

- 「AWS管理者パラメータ」へ登録した情報でAWSへログインし、「AWS管理者パラメータ」へ登録したユーザ名の「アクセスキー」「シークレットキー」を作成して取得
※手順については「導入準備－AWS環境準備－①システム管理者のIAMユーザー準備」を参照してください。
- 「AWSアクセスキー管理」>「AWS管理者」>「登録」>「登録開始」
「ホスト名」「オペレーション」「アカウントID」「アクセスキー」「シークレットキー」を入力して「登録」を押下

登録

No	ホスト名*	オペレーション	アカウントID*	パラメータ
自動入力	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/> アクセスキー* <input type="text"/> シークレットキー*

*は必須項目です。

戻る 登録

POINT

- | | |
|----------|---|
| ホスト名 | : 本ITA導入サーバのホスト名を選択
(デフォルトは" exastro-it-automation") |
| オペレーション | : 任意のオペレーションを選択 |
| アカウントID | : 1.で利用したAWS管理者のアカウントIDを入力 |
| アクセスキー | : 1.で作成したAWS管理者のアクセスキーを入力 |
| シークレットキー | : 1.で作成したAWS管理者のシークレットキーを入力 |

3.8 インフラ管理者&インフラユーザーのIAMユーザー作成実行と登録（1/4）

- 以降のITAの作業は「aws-admin（AWS管理者）」で実施してください。
- 「インフラ管理者&インフラユーザーパラメータ」の「ユーザー名」「初回パスワード」「グループ名」をCSテンプレートのデフォルト値から変更する場合、本手順を実行してください。

■ インフラ管理者&インフラユーザーパラメータ登録

- 「パラメータ管理」>「インフラ管理者&インフラユーザーパラメータ」>「フィルタ」>「更新」
「ホスト名」「オペレーション」「ユーザー名／インフラ管理者」「初回パスワード／インフラ管理者」「グループ名／インフラ管理者」「ユーザー名／インフラユーザー」「初回パスワード／インフラユーザー」「グループ名／インフラユーザー」を入力して「更新」を押下

The screenshot shows a table with columns: No., Host Name, Operation, User Name / Infrastructure Manager, and Initial Password / Infrastructure Manager. The first row has values: 1, exastro-it-automation, 2020/05/28 11:00_1:環境A, cloud-system-temp, C\$template2020@. At the bottom, there is a note '※*は必須項目です。' and two buttons: '戻る' and '更新'.

POINT

ホスト名	: 本ITA導入サーバのホスト名を選択 (デフォルトは"exastro-it-automation")
オペレーション	: 任意のオペレーションを選択
ユーザー名／**	: 任意のユーザ名を入力
初回パスワード／**	: 任意のパスワードを入力
グループ名／**	: 任意のグループ名を入力

3.8 インフラ管理者&インフラユーザーのIAMユーザー作成実行と登録 (2/4)

インフラ管理者&インフラユーザー作成の実行

「Conductor」>「Conductor作業実行」

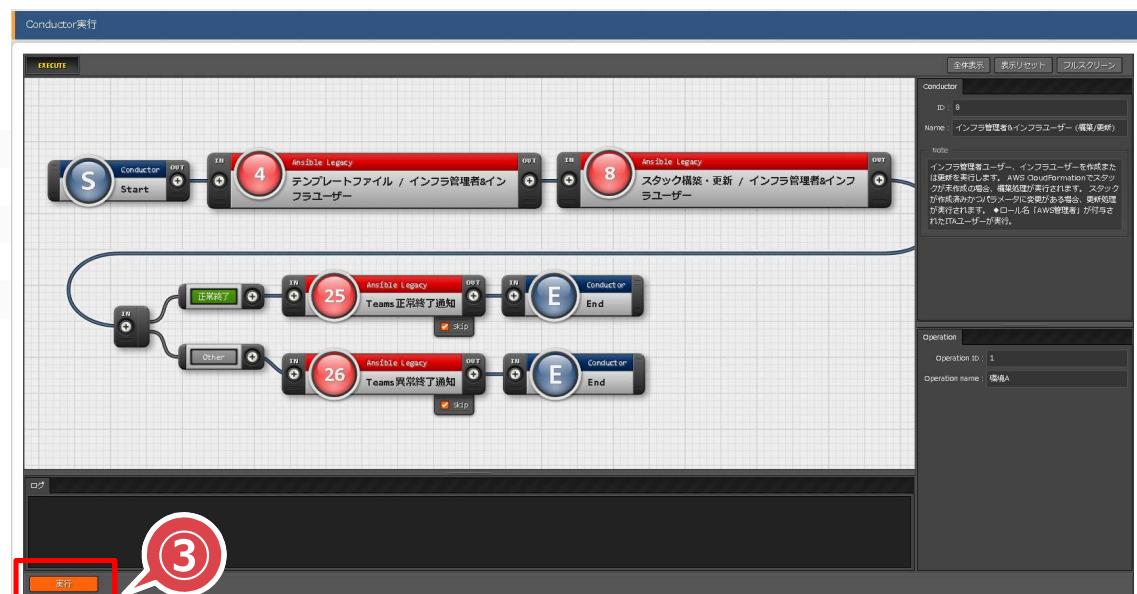
「Conductor[一覧]」の「インフラ管理者&インフラユーザー（構築／更新）」を選択し、「オペレーション[一覧]」から「インフラ管理者&インフラユーザーパラメータ」へ登録したオペレーションを選択して画面最下部の「実行」を押下

The screenshot shows the 'Conductor [List]' screen with various operations listed. Operation 8, 'インフラ管理者&インフラユーザー (構築/更新)', is highlighted with a red box and circled with a red number 1. This operation is described as creating or updating an IAM user for infrastructure management.

オペレーション[一覧]

ID	名前	説明
1	環境A	2020/05/28 11:00 2020/06/10 10:00 リージョン: 東京
4	環境B	2020/06/01 12:00 2020/06/10 10:00 リージョン: バージニア北部

ファイル結果件数: 2



3.8 インフラ管理者&インフラユーザーのIAMユーザー作成実行と登録（3/4）

■ AWSアクセスキー管理_インフラ管理者とインフラユーザーの登録

1. 「インフラ管理者&インフラユーザーパラメータ」へ登録した情報でAWSへログインし、

それぞれの「アクセスキー」「シークレットキー」を作成して取得

※手順については「導入準備－AWS環境準備－①システム管理者のIAMユーザー準備」を参照してください。

2. 「AWSアクセスキー管理」>「インフラ管理者」>「登録」>「登録開始」

「ホスト名」「オペレーション」「アカウントID」「アクセスキー」「シークレットキー」を入力して「登録」を押下

→前項1で作成したインフラ管理者の「アクセスキー」「シークレットキー」を入力

3. 「AWSアクセスキー管理」>「インフラユーザー」>「登録」>「登録開始」

「ホスト名」「オペレーション」「アカウントID」「アクセスキー」「シークレットキー」を入力して「登録」を押下

→前項1で作成したインフラユーザーの「アクセスキー」「シークレットキー」を入力

3.9 オートスケール用パラメータの登録（1/3）

- ・以降のITAの作業は「infra-admin（インフラ管理者）」で実行してください。
- ・CSテンプレートのConductor「オートスケールWebサーバ（構築／更新）」などを実行する場合、本ページ以降の手順に沿ってパラメータ登録を実施してください。

AutoScaleパラメータへの登録

- 「パラメータ管理」>「AutoScaleパラメータ」>「フィルタ」>「更新」
「AMI」「キーペア名／Webサーバ名」「SSL証明書」を入力して「更新」を押下

一覧/更新

△閉じる

No.	AMI*	インスタンスタイプ*	キーペア名/Webサーバ*	最小インスタンス数*	最大インスタンス数*	ELB証明書*	ELBログプレフィックス*	日時	最終更新者
1	t2.small	t2.small	cloud-system-temp	3	12	cloud-system-temp	cloud-system-temp	自動入力	自動入力

*は必須項目です。

戻る **更新**

POINT

以下の項目に、「導入準備 – AWS環境準備 – ②EC2 Auto Scaling利用の環境準備」で用意した以下の情報を入力

AMI	: AMI ID
キーペア名／Webサーバ名	: キーペア名（Webサーバ用）
SSL証明書	: ELB用のSSL証明書

3.9 オートスケール用パラメータの登録 (2/3)

Bastionパラメータへの登録

- 「パラメータ管理」>「Bastionパラメータ」>「フィルタ」>「更新」
「KeyName」 「AMI」 を入力して「更新」を押下



POINT

以下の項目に、「導入準備 – AWS環境準備 – ②EC2 Auto Scaling利用の環境準備」で用意した以下の情報を入力

KeyName : キーペア名（踏み台サーバ用）
AMI : AMI ID

3.9 オートスケール用パラメータの登録（3/3）

■ キーペアの登録

- 「Ansible共通」>「ファイル管理」>[CPF_SECRET_KEY_BASTION]の「更新」を押下
「ファイルを選択」を押下して、「導入準備－AWS環境準備－②EC2 Auto Scaling利用の環境準備」で用意した踏み台サーバー用の「キーペア（pemファイル）」を選択して「事前アップロード」を押下。
アップロードが完了したら「更新」を押下。
- 同様の手順で「CPF_SECRET_KEY_WEB」へWebサーバー用の「キーペア（pemファイル）」を登録してください。

一覧/更新

素材ID	ファイル埋込変数名*	ファイル素材*	備考
2	CPF_SECRET_KEY_BAS	現在アップロードされていません。 si-template-sydney.pem	踏み台サーバの秘密鍵
<p>1 ファイルを選択 si-template-sydney.pem</p> <p>2 事前アップロード</p> <p>アップロード状況: アップロードしました。 ファイル名 si-template-sydney.pem サイズ1670bytes</p>			

^{}は必須項目です。

戻る 更新

① ファイルを選択
② 事前アップロード
③ 更新

POINT

デフォルトで中身が空白の「dummy_key.pem」が登録されています。

4. 補足



4.1 システム管理者&AWS管理者のパラメータ廃止と復活（1/2）

「システム管理者」「AWS管理者」で実行するConductorを、「インフラ管理者」「インフラユーザー」で実行させたくない場合、以下の手順を実施してください。

■ システム管理者 & AWS管理者のパラメータ廃止

※本項目の作業は「administrator（システム管理者）」で実施してください

- 「AWSアクセスキー管理」>「システム管理者」>「フィルタ」>「3.6 システム管理者のAWSアカウント情報登録」で登録した「システム管理者」のパラメータの「廃止」を押下
同様の手順で「3.7 AWS管理者のIAMユーザー作成実行と登録（3/3）」で登録した、「AWS管理者」のパラメータを廃止してください。

一覧/更新

更新	廃止	N	ホスト名	オペレーション				
				ID	オペレーション名	基準日時	実施予定日時	最終実行日時
更新	廃止	①	exastro-it-automation	1	環境A	2020/08/27 10:44	2020/10/01 12:00	2020/08/27 10:44

フィルタ結果件数: 1

4.1 システム管理者&AWS管理者のパラメータ廃止と復活（2/2）

「システム管理者&AWS管理者のパラメータ廃止」の手順実行後、「システム管理者」「AWS管理者」で Conductorを実行する必要がある場合、以下の手順を実施してください。

■ システム管理者&AWS管理者のパラメータ復活

※本項目の作業は「administrator（システム管理者）」で実施してください

- 「AWSアクセスキー管理」>「システム管理者」>表示フィルタの廃止欄で「廃止のみ」を選択>「filtration」前頁にて廃止した「システム管理者」のパラメータの「復活」を押下。
同様の手順で「AWS管理者」のパラメータを復活させてください。

一覧/更新									
更新	廃止	N	ホスト名	オペレーション					
				ID	オペレーション名	基準日時	実施予定日時	最終実行日時	
更新	復活	①	exastro-it-automation	1	環境A	2020/08/27 10:44	2020/10/01 12:00	2020/08/27 10:44	

フィルタ結果件数: 1

4.2 Teams連携通知の登録（1/4）

Conductorの実行結果をTeamsへ通知させたい場合は、本項目の手順を実行してください。

①TeamsのWebhookURLの準備

- 通知を受けたいチャネルのWebhookURLを用意してください。

【参考】WebhookURL取得の手順概要（Teamsにて実施）

- ①通知を受けたいチャネルの右の「…」>「コネクタ」を押下
- ②「Incoming Webhook」の「追加」もしくは「構成」を押下
- ③任意の名前を入力して「作成」を押下してWebhookURLを取得

4.2 Teams連携通知の登録 (2/4)

②Teams連携管理の登録

- 「Teams連携管理」>「通知設定」>「登録」>「登録開始」
「ホスト名」「オペレーション」「通知先Webhook」を入力して「登録」を押下

登録

No	ホスト名*	オペレーション	パラメータ	備考
自動入力		オペレーション*	通知先Webhook*	

※*は必須項目です。

戻る 登録

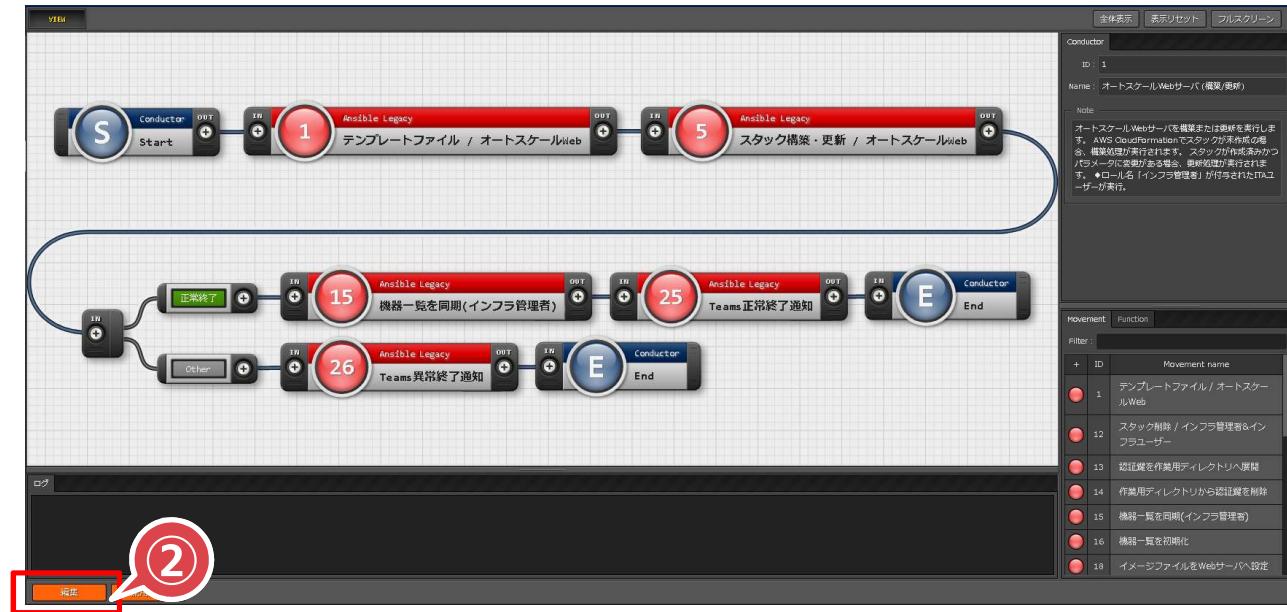
POINT

- ホスト名 : 本ITA導入サーバのホスト名を選択
(デフォルトは" exastro-it-automation")
- オペレーション : 任意のオペレーションを選択
- 通知先Webhook : 「Teams連携通知の登録-Webhook準備」で用意した
WebhookURLを入力

4.2 Teams連携通知の登録 (3/4)

③Conductorの編集

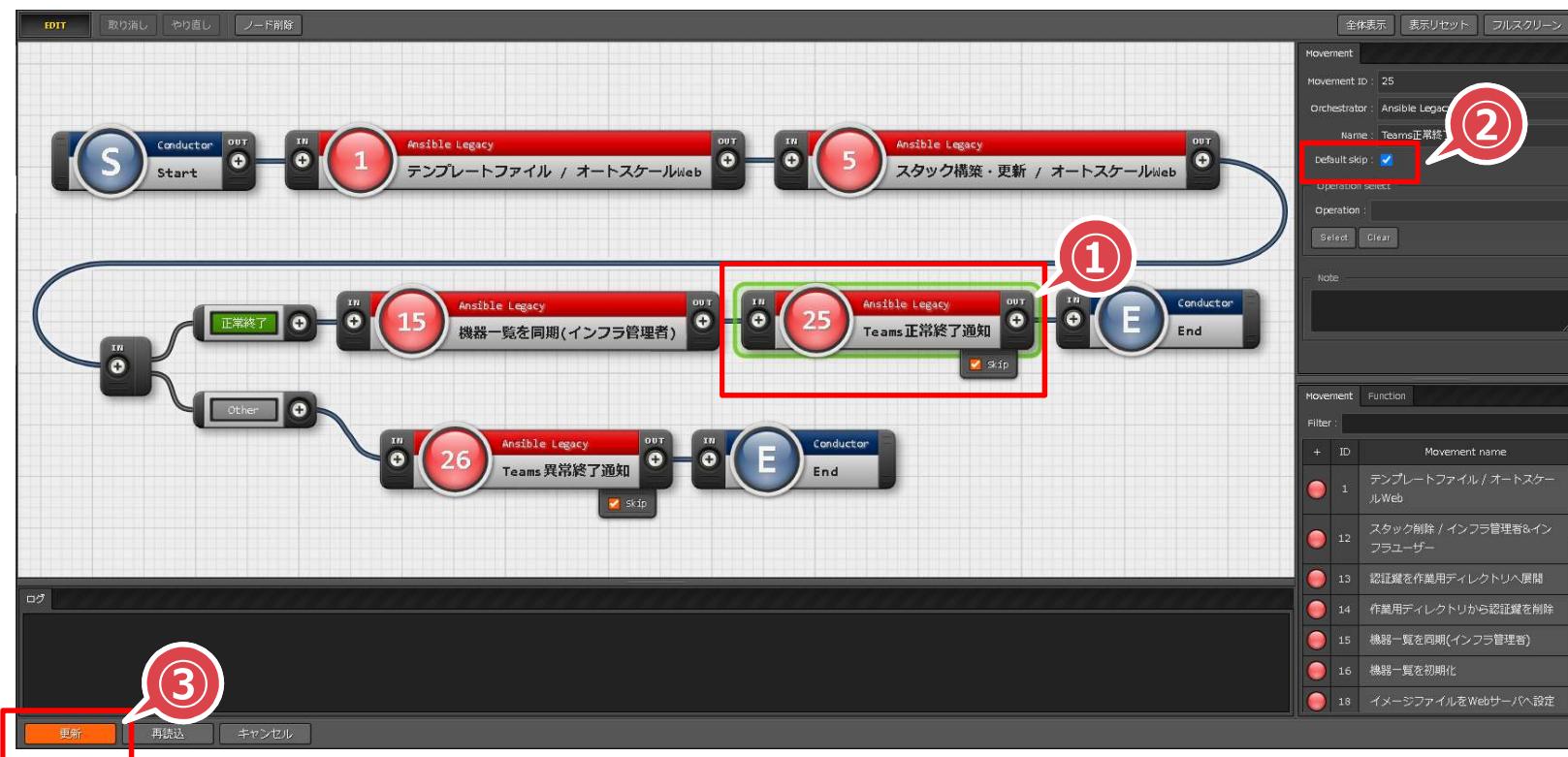
- 「Conductor」>「Conductorクラスク一覧」>「フィルタ」>Teamsへ通知させたいConductorの「詳細」>移動先画面下部の「編集」を押下



4.2 Teams連携通知の登録 (4/4)

③Conductorの編集

- 「Teams正常終了通知」を押下して画面右側の「Default skip」のチェックを解除、
「Teams異常終了通知」を押下して画面右側の「Default skip」のチェックを解除して、画面下部の「更新」を押下。



4.3 メニューグループ／メニュー概要（1/5）

■ メニューグループ ※ITAデフォルトのメニューグループや参照用メニューグループは説明を省略。



メニューグループ名	説明
パラメータ管理	CSテンプレートのパラメータを登録・管理するメニューグループ
構築/更新シナリオ	CSテンプレートの構築/更新シナリオを登録・管理するメニューグループ
削除シナリオ	CSテンプレートの削除シナリオを登録・管理するメニューグループ
ドキュメント管理	設計、構築、評価のドキュメントを登録・管理するメニューグループ
AWSアクセスキー管理	AWSのアカウント情報を管理するメニューグループ
Teams連携管理	Teams通知連携の情報を管理するメニューグループ
マスタ管理	CSテンプレートのパラメータのマスタ情報を定義するメニューグループ
代入値管理	Movement「機器一覧同期」により登録され、Webサーバ構築のシナリオから参照される値を管理するメニューグループ。原則手動での変更は行わない

4.3 メニューグループ／メニュー概要 (2/5)

■ パラメータ管理



メニュー名	説明
共通パラメータ	システム全体のパラメータを管理するメニュー
AWS管理者パラメータ	AWS管理者のパラメータを管理するメニュー
インフラ管理者&インフラユーザー パラメータ	インフラ管理者/インフラユーザーのパラメータを管理するメニュー
AutoScaleパラメータ	AutoScaleスタックで使用するパラメータを管理するメニュー
S3パラメータ	S3スタックで使用するパラメータを管理するメニュー
SNSパラメータ	SNSスタックで使用するパラメータを管理するメニュー
CloudTrailパラメータ	CloudTrailスタックで使用するパラメータを管理するメニュー
Networkパラメータ	Networkスタックで使用するパラメータを管理するメニュー
SecurityGroupパラメータ	SecurityGroupスタックで使用するパラメータを管理するメニュー
Bastionパラメータ	Bastionスタックで使用するパラメータを管理するメニュー
VPCflowlogsパラメータ	VPCflowlogsスタックで使用するパラメータを管理するメニュー
CloudWatchAlarmパラメータ	CloudWatchスタックで使用するパラメータを管理するメニュー
GuardDutyパラメータ	GuardDutyスタックで使用するパラメータを管理するメニュー

4.3 メニューグループ／メニュー概要 (3/5)

構築／更新シナリオ



メニュー名	説明
オートスケールWebサーバ	オートスケールWebサーバの構築/更新シナリオを管理するメニュー
GuardDuty	GuardDutyの構築/更新シナリオを管理するメニュー
AWS管理者	AWS管理者の構築/更新シナリオを管理するメニュー
インフラ管理者&インフラユーザー	インフラ管理者/インフラユーザーの構築/更新シナリオを管理するメニュー

削除シナリオ



メニュー名	説明
オートスケールWebサーバ	オートスケールWebサーバの削除シナリオを管理するメニュー
GuardDuty	GuardDutyの削除シナリオを管理するメニュー
AWS管理者	AWS管理者の削除シナリオを管理するメニュー
インフラ管理者&インフラユーザー	インフラ管理者/インフラユーザーの削除シナリオを管理するメニュー

4.3 メニューグループ／メニュー概要 (4/5)

マスタ管理

Exastro IT Automation マスタ管理

Menu

メインメニュー

Stack 定義 AWS リージョン 実行 フラグ システム 環境 インスタンス タイプ EC2 ブロック デバイス ログ 保管 期間 リトライ 回数

>Main Menu Parameter Management Structure/Update Script Ansible-Pioneer Ansible-Legacy...

メニュー	説明
Stack 定義	Stack 名・テンプレートファイルを定義するメニュー
AWS リージョン	構築する AWS リージョンを定義するメニュー
実行 フラグ	実行 フラグを定義するメニュー
システム 環境	システム 環境を定義するメニュー
インスタンス タイプ	構築する インスタンス の インスタンス タイプ を定義するメニュー
EC2 ブロック デバイス	ブロック デバイス の マッピング を定義するメニュー
ログ 保管 期間	ログ の 保管 期間 を定義するメニュー ※ S3 に 格納 される ログ は 自由 入力 のため 対象 外
リトライ 回数	構築 失敗 時 の リトライ 回数 を定義するメニュー

代入値管理

Exastro IT Automation 代入値管理

Menu

メインメニュー

Bastion WEB

Main Menu Parameter Management Structure/Update Script Ansible-Pioneer Ansible-Legacy...

メニュー	説明
Bastion	踏み台 サーバ を ホスト グループ に 登録 するため の メニュー
WEB	WEB サーバ を ホスト グループ に 登録 するため の メニュー

4.3 メニューグループ／メニュー概要 (5/5)

ドキュメント管理

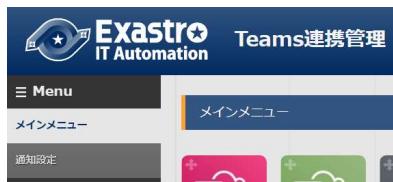


メニュー名	説明
基本設計	基本設計書を管理するメニュー
詳細設計	詳細設計書を管理するメニュー
構築資料	構築資料を管理するメニュー
評価資料	評価資料を管理するメニュー

AWSアクセスキー管理



Teams連携管理



4.4 Conductorの参照パラメータ(1/11)

- Conductor「オートスケールWebサーバ(構築/更新)」で参照するパラメータは以下の通り。

Conductor クラスID	Conductor名称	メニュー群名	メニュー名	項目名
1	オートスケールWebサーバ (構築/更新)	パラメータ管理	共通パラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
			AutoScaleパラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
			S3パラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
			SNSパラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
			CloudTrailパラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
			Networkパラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
			SecurityGroupパラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
			Bastionパラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
			VPCflowlogsパラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
			CloudWatchAlarmパラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
			構築/更新シナリオ	オートスケールWebサーバ
			AWSアクセスキー管理	インフラ管理者
			Teams連携管理	通知設定
		Ansible共通	グローバル変数管理	以下のグローバル変数名を参照。 「GBL_PROXY」
			ファイル管理	以下のファイル埋込変数を参照。 「CPF_STARTUP」 「CPF_DEVICE_LIST_SYNC」

4.4 Conductorの参照パラメータ(2/11)

- Conductor 「オートスケールWebサーバ(構築/更新)」で参照するテンプレートファイルは以下の通り。

Conductor クラスID	Conductor名称	メニューグループ名	メニュー名	テンプレート埋込変数名
1	オートスケールWebサーバ (構築/更新)	Ansible共通	テンプレート管理	TPF_AutoScale TPF_Security_KMS TPF_Storage_S3 TPF_AppIntegration_SNS TPF_Management_CloudTrail TPF_Network TPF_SecurityGroup TPF_Bastion TPF_Management_VPCflowlog TPF_Management_CloudWatchAlarm

4.4 Conductorの参照パラメータ(3/11)

- Conductor「オートスケールWebサーバ(EC2へPlaybook実行)」で参照するパラメータは以下の通り。

Conductor クラスID	Conductor名称	メニュー名	メニュー名	項目名
2	オートスケールWebサーバ (EC2へPlaybook実行)	パラメータ管理	共通パラメータ	「システム名」 「AWSリージョン」
			AutoScaleパラメータ	「キーペア名/Webサーバ」
			Bastionパラメータ	「KeyName」
		AWSアクセスキー管理	インフラユーザー	「アクセスキー」 「シークレットキー」
			グローバル変数管理	以下のグローバル変数名を参照。 「GBL_PROXY」
		Ansible共通	ファイル管理	以下のファイル埋込変数を参照。 「CPF_SECRET_KEY_BASTION」 「CPF_SECRET_KEY_WEB」 「CPF_IMAGEFILE」 「CPF_DEVICE_LIST_SYNC」
			代入値管理	「項目」
			WEB	

4.4 Conductorの参照パラメータ(4/11)

- Conductor「オートスケールWebサーバ(削除)」で参照するパラメータは以下の通り。

Conductor クラスID	Conductor名称	メニュー群名	メニュー名	項目名
3	オートスケールWebサーバ (削除)	パラメータ管理	共通パラメータ	「システム名」 「AWSリージョン」
		削除シナリオ	オートスケールWebサーバ	メニュー内の全ての項目を参照。
		AWSアクセスキー管理	インフラ管理者	「アクセスキー」 「シークレットキー」
		Teams連携管理	通知設定	メニュー内の全ての項目を参照。
		Ansible共通	グローバル変数管理	以下のグローバル変数名を参照。 「GBL_PROXY」
			ファイル管理	以下のファイル埋込変数を参照。 「CPF_STARTUP」 「CPF_DEVICE_LIST_SYNC」

4.4 Conductorの参照パラメータ(5/11)

- Conductor 「GuardDuty(構築/更新)」で参照するパラメータは以下の通り。

Conductor クラスID	Conductor名称	メニュー群名	メニュー名	備考
4	GuardDuty(構築/更新)	パラメータ管理	共通パラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
			GuardDutyパラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
		構築/更新シナリオ	GuardDuty	メニュー内の全ての項目を参照。
		AWSアクセスキー管理	インフラ管理者	メニュー内の全ての項目を参照。
		Teams連携管理	通知設定	メニュー内の全ての項目を参照。
		Ansible共通	グローバル変数管理	以下のグローバル変数名を参照。 「GBL_PROXY」

- Conductor 「GuardDuty (構築/更新)」で参照するテンプレートファイルは以下の通り。

Conductor クラスID	Conductor名称	メニュー群名	メニュー名	テンプレート埋込変数名
4	GuardDuty (構築/更新)	Ansible共通	テンプレート管理	TPF_Security_GuardDuty

4.4 Conductorの参照パラメータ(6/11)

- Conductor 「GuardDuty(削除)」で参照するパラメータは以下の通り。

Conductor クラスID	Conductor名称	メニュー群名	メニュー名	備考
5	GuardDuty(削除)	パラメータ管理	共通パラメータ	「システム名」 「AWSリージョン」
		削除シナリオ	GuardDuty	メニュー内の全ての項目を参照。
		AWSアクセスキー管理	インフラ管理者	「アクセスキー」 「シークレットキー」
		Teams連携管理	通知設定	メニュー内の全ての項目を参照。
		Ansible共通	グローバル変数管理	以下のグローバル変数名を参照。 「GBL_PROXY」

4.4 Conductorの参照パラメータ(7/11)

- Conductor 「AWS管理者(構築/更新)」で参照するパラメータは以下の通り。

Conductor クラスID	Conductor名称	メニュー群名	メニュー名	備考
6	AWS管理者(構築/更新)	パラメータ管理	共通パラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
			AWS管理者パラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
		構築/更新シナリオ	AWS管理者	メニュー内の全ての項目を参照。
		AWSアクセスキー管理	システム管理者	メニュー内の全ての項目を参照。
		Teams連携管理	通知設定	メニュー内の全ての項目を参照。
		Ansible共通	グローバル変数管理	以下のグローバル変数名を参照。 「GBL_PROXY」

- Conductor 「 AWS管理者(構築/更新)」で参照するテンプレートファイルは以下の通り。

Conductor クラスID	Conductor名称	メニュー群名	メニュー名	テンプレート埋込変数名
6	AWS管理者(構築/更新)	Ansible共通	テンプレート管理	TPF_AWS_AdminUser

4.4 Conductorの参照パラメータ(8/11)

- Conductor 「AWS管理者(削除)」で参照するパラメータは以下の通り。

Conductor クラスID	Conductor名称	メニュー群名	メニュー名	備考
7	AWS管理者(削除)	パラメータ管理	共通パラメータ	「システム名」「AWSリージョン」
		削除シナリオ	AWS管理者	メニュー内の全ての項目を参照。
		AWSアクセスキー管理	システム管理者	「アクセスキー」「シークレットキー」
		Teams連携管理	通知設定	メニュー内の全ての項目を参照。
		Ansible共通	グローバル変数管理	以下のグローバル変数名を参照。 「GBL_PROXY」

4.4 Conductorの参照パラメータ(9/11)

- Conductor「インフラ管理者&インフラユーザー(構築/更新)」で参照するパラメータは以下の通り。

Conductor クラスID	Conductor名称	メニュー群名	メニュー名	備考
8	インフラ管理者&インフラユーザー(構築/更新)	パラメータ管理	共通パラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
			インフラ管理者&インフラユーザーパラメータ	メニュー内の全ての項目を参照。
		構築/更新シナリオ	インフラ管理者&インフラユーザー	メニュー内の全ての項目を参照。
		AWSアクセスキー管理	AWS管理者	メニュー内の全ての項目を参照。
		Teams連携管理	通知設定	メニュー内の全ての項目を参照。
		Ansible共通	グローバル変数管理	以下のグローバル変数名を参照。 「GBL_PROXY」

- Conductor「インフラ管理者&インフラユーザー(構築/更新)」で参照するテンプレートファイルは以下の通り。

Conductor クラスID	Conductor名称	メニュー群名	メニュー名	テンプレート埋込変数名
8	インフラ管理者&インフラユーザー(構築/更新)	Ansible共通	テンプレート管理	TPF_AWS_InfraUser

4.4 Conductorの参照パラメータ(10/11)

- Conductor 「インフラ管理者&インフラユーザー(削除)」で参照するパラメータは以下の通り。

Conductor クラスID	Conductor名称	メニュー群名	メニュー名	備考
9	インフラ管理者&インフラユーザー(削除)	パラメータ管理	共通パラメータ	「システム名」 「AWSリージョン」
		削除シナリオ	インフラ管理者&インフラユーザー	メニュー内の全ての項目を参照。
		AWSアクセスキー管理	AWS管理者	「アクセスキー」 「シークレットキー」
		Teams連携管理	通知設定	メニュー内の全ての項目を参照。
		Ansible共通	グローバル変数管理	以下のグローバル変数名を参照。 「GBL_PROXY」

4.4 Conductorの参照パラメータ(11/11)

- Conductor「【定期実行】機器一覧同期」で参照するパラメータは以下の通り。

Conductor クラスID	Conductor名称	メニュー群名	メニュー名	項目名
11	【定期実行】機器一覧同期	パラメータ管理	共通パラメータ	「システム名」 「AWSリージョン」
			AutoScaleパラメータ	「キーペア名/Webサーバ」
			Bastionパラメータ	「KeyName」
		AWSアクセスキー管理	インフラユーザー	「アクセスキー」 「シークレットキー」
		Ansible共通	グローバル変数管理	以下のグローバル変数名を参照。 「GBL_PROXY」
			ファイル管理	以下のファイル埋込変数を参照。 「CPF_SECRET_KEY_BASTION」 「CPF_SECRET_KEY_WEB」 「CPF_DEVICE_LIST_SYNC」
		代入値管理	WEB	「項目」

